

令和元年 8 月 6 日

日本作物学会会員の皆様

日本作物学会シンポジウム委員会

委員長・高橋肇

「第 248 回講演会のシンポジウムで皆様のご意見を募ります」

前略

本年度のシンポジウムは、令和元年 9 月 25 日に第 248 回講演会においてとりぎん文化会館小ホールにて開催いたします。「田舎はいかが？ ～農業で支える田舎の魅力を売り込め～」と題して、生産物のマーケティング戦略を通じて中山間地域でいかにして永続的に営農を続けることができるのかを議論しようというものです。

今回のシンポジウムでは、パネルディスカッションでの議論に先駆けて、皆様からのご意見を募ることにいたしました。「田舎の魅力とは何か？」「どのようにして売り込めば良いのか？」など、皆様のご意見をいただき、それをもとにパネリスト・スタッフとあらかじめ議論をしたうえで、当日のパネルディスカッションの議論に臨みたいと思っています。

つきましては、作物学会員の皆様からも積極的にご意見をお寄せいただきたくお願いいたします。いただいたご意見は「匿名」にて扱わせていただきます。学会員の声を反映させたシンポジウムを目指してみたいと思います。なにとぞご協力くださいますよう、お願いいたします。

草々

日本作物学会第 248 回講演会シンポジウム

「田舎はいかが？ ～農業で支える田舎の魅力を売り込め～」

開催日：令和元年 9 月 25 日（水）13:00～16:30

会場：とりぎん文化会館小ホール

中国地域では、農業の主たる担い手である集落営農法人で、高齢化等による担い手が減少し、経営面積を増加せざるを得なくなっています。しかし、1筆の区画規模が小さく、作業の効率化・省力化が難しい条件の悪い圃場が新たに集積され、規模の経済が働き難い状況にあり、経営を圧迫する要因になっています。そのようななか、中山間地域では、麦、大豆、水稻による 2 年 3 作の水田輪作体系の営農モデルが提案され、収益力を強化する低コスト多収栽培技術ならびに高付加価値化栽培技術を確立しようと努めてきました。

営農モデルでは、栽培技術の提案による多収・省力化による収益力向上を提示することとどまらず、高い機能性成分をもつ「もち麦（売れる麦）」や「特別栽培米」のマーケティング戦略を確立することにより、中山間地の農産物を広く売り出し、永続的に安定した経

営を行えるようにすることも目指しています。ただし、農業関係者だけでは、実需者や消費者が求める「売れる」ということを十分に計り知ることは難しいと思います。

そこで、本シンポジウムでは、農業関係者の研究成果である中山間地での新たな栽培技術体系とその生産物のマーケティング戦略を提示し、中山間地域でいかにして永続的に営農を続けることができるのか、いかにして田舎で暮らしていくことができるのかについて議論したいと思います。農業関係者では気づきにくい視点を、都会の消費者を対象に商売している人、田舎で町の人を呼び込む人、田舎と都会とを結び付けている人、さらには田舎のあり方を見つめ直している人とのディスカッションから明らかにしていきます。

【シンポジウムの内容（プログラム）】

1. 本シンポジウムの概要について（鳥取大・山口） 10分

中山間地（条件不利地）での農業振興のため、水稻－麦－大豆の2年3作の作付け体系での農家の収益向上を図るべくプロジェクト研究が行われた。省力・多収栽培技術で麦や米、大豆を増産し、これらを街へと売り込むマーケティング戦略を構築した。健康食としてのもち麦ご飯の振興で、麦の消費拡大を図ると同時にお米の消費拡大も図る。近年、「糖質」という表現で健康に悪いと考えられてきたご飯を、「もち麦ご飯」にすることで美味しく健康に良い食品に生まれ変わらせる。

2. パネリスト紹介（各15分） 45分

西島豊造（スズノブ、こだわり米・差別化米専門店）

お米のブランド化と消費者の志向について

前田耕作（マエダ、はだか麦・もち麦の販売）

もち性ははだか麦の産地から消費者への発信について

花房美香（ガーデニングプランナー）

田舎と都会を結ぶ、お取り寄せネット販売からガーデニングプランナーまで

3. プロジェクト研究「売れる麦を核とする中山間水田輪作体系における収益力強化と省力化の実証」の成果紹介（山口大・高橋） 30分

排水対策による麦・大豆の多収化栽培技術

密播疎植栽培による水稻の低コスト栽培

後期重点施肥によるもち麦の高β-グルカン化

大豆の雑草の適期防除を図るスマホアプリによる多筆圃場の栽培管理

これら多収・低コスト栽培による農家の所得向上

4. プロジェクト研究におけるもち麦と特別栽培米のマーケティング戦略の構築について（西日本農研・大室） 30分

食べて実感するもち麦の機能性・・・女性と最近食べ始めたヘビーユーザーを中心にもち麦の消費拡大を図る

中山間地の豊かな自然の中で育まれた特別栽培米・・・消費者は「環境にやさしい栽培

で育った特別栽培米」に価値を感じるのか？それとも「美味しさ」で勝負すべきなのか？
それぞれでの販売実証試験の成果を紹介する

5. パネルディスカッション 60分

プロジェクト研究のマーケティング戦略はどう評価されるのか？

中山間地で生産された麦や米にはどのような魅力があり、どのようにして消費者に販売していただけるのか？

※パネルディスカッションでは、田舎の魅力についてやその魅力を売り込むための方法について、事前に皆様から広く意見を集め、その意見をもとに議論します。いただいたご意見は匿名とさせていただきます。次の質問にお答えいただく形でご意見を募ります。

次の3つの質問にお答えください。

- ①あなたが考える田舎の魅力とは、何ですか？
- ②あなたが考える田舎の魅力を売り込むためには、どんな方法が考えられますか？
- ③このシンポジウムに期待すること等、ご自由にご意見をお寄せください。また、シンポジウムの内容に関してご質問があればお寄せください。

送り先 (2019年8月31日〆切)

高橋肇 (たかはしただし)

E メールアドレス : tadashit@yamaguchi-u.ac.jp

FAX:083-933-5840

〒753-8515 山口県山口市吉田 1677-1 山口大学農学部

(文責：高橋肇 山口大学大学院創成科学研究科)

本シンポジウムは農研機構生研支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）」の支援による研究成果を基に実施する。